

平成 24 年度 学部 FD 推進事業報告書

標記のことに関し、以下の通り報告いたします。

学 部 名	神道文化学部
事 業 名	アンケートの実施の簡便化による授業運営、学部運営の向上プログラム
平成 24 年度実務担当者名	西岡 和彦
事 業 の 概 要	
<p>【計画性】当初計画通りに事業を推進できたか？（いずれかにチェック）</p> <p><input type="checkbox"/>計画通りであった <input checked="" type="checkbox"/>概ね計画通りであった <input type="checkbox"/>あまり計画通りではなかった <input type="checkbox"/>計画通りではなかった</p> <p>（以下、本年度の推進事業の概要について、年初「申請書」の「内容」「目的」「計画」、及び前記【計画性】の自己評価、さらに別添の「経費執行表」における予算の執行結果に照らして記入してください。）</p> <p>① 申請時における「目的」「内容」「計画」について</p> <p>本事業の目的は、3種類のアンケートソフトを導入することで、学部学生の実態や指向性を迅速刈る容易に把握するための制度を構築することにあった。具体的内容としては、「秀吉 Dplus Ver. 2011」「SPSS Statics」「AltPaper」の導入と利用である。</p> <p>実際の事業における目的は、当初の通りで大きな変更は生じなかった。わずか19名の教員で、60歳以上が半数以上を占める学部教員の実態において、迅速で容易なアンケート集計は、重要な意味を持っている。</p> <p>② 当初の計画の実施について</p> <p>全体を鳥瞰すれば、目的に沿ったソフトの利用と内容を伴った計画であるといえることができる。複数の予定していたアンケート調査（卒業生を対象とした満足度調査・2年次の進路希望調査・課外講座の意見集計など）は実施ができた。</p> <p>しかしながら、以上を持って十分と言えるかということ必ずしもそうではない。問題の所在は二点である。第一は、利用した集計ソフト「秀吉」が、事前のインターネットによる情報の収集にもかかわらず、予想よりも利用しにくいソフトで、一部の教員のみ利用となった。ソフトの理解と利用に時間がかかり、教務委員を中心とした若手教員全員の共通理解とまではいかなかった。「SPSS」は当初の予定通り、一部のデータの詳細な分析に利用ができた。「AltPaper」に関しては、他の学部事業でマークシート方式の集計用ソフトを購入したために、ソフトを利用した集計の機会が失われた。</p> <p>③ 学部内での周知・共有について</p> <p>教務委員を中心とした若手教員の間では、アンケートの実施、集計、分析、分析に基づく事業や授業の改善は当たり前となりつつある。他方で、年配の教員の間では温度差があり、必ずしも関心を持たない教員も少なくない。今後は、学部全体が、意識せずとも常時現状の確認作業を行うような改革が必要と思われる。</p> <p>④ 予算の執行状況については、上記をそのまま反映している。</p>	